



地域医療連携室だより

Community Healthy Network News

共に診る・共に支える地域医療



未来を見据えた病院を目指して

平鹿総合病院 事務長 伊藤 智史

今年4月から事務長に着任しております伊藤です。地域の皆さまにおかれましては、日頃より当院の事業運営にご理解とご協力を賜わり、心より御礼申し上げます。

依然として終息の見通しがつかない新型コロナウイルス感染症ですが、開業医の先生方によるワクチン接種や発熱外来の御協力のおかげもあり、当院は地域で求められている入院機能や救急センターを維持することが出来ました。

そんな中においても人口減少は続いており、病院のダウンサイジングは避けて通れません。医師の偏在、医師の働き方改革等、限りある医療資源の効率的な運用について、地域の皆さまにご理解いただきながら、推進していかねばなりません。

今後も当院が横手医療圏で急性期病院の役割機能を果たしていくためには、入院患者の安定的な確保と在院日数の適正化が不可欠です。地域の皆さまの健康と豊かな生活を守るため、開業医の先生方や介護福祉施設等との連携をより一層推進していく所存でありますので、なお一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

もくじ

未来を見据えた病院を目指して	①
連携医療機関・介護福祉施設のご紹介	②
当院の活動報告	③
トピックス	④

連携医療機関・介護福祉施設のご紹介

地域の医療を支える3人4脚の要として



高橋耳鼻咽喉科眼科
クリニック 院長

高橋 辰



地域連携室の皆様にはいつも大変お世話になっております。この紙面をお借りしてまずは御礼を申し上げます。私の診療科も他の科と同様に、耳鼻科のみならず脳外科をはじめ内科・眼科・皮膚科・精神科など様々な診療科との間で紹介や逆紹介を頂戴し、病診連携がいかに大切かを日々痛感しています。本来ならば連携室を通しての紹介申込も必要なところですが、急を要する場合は直電で直ぐにご対応いただくことも多く、平鹿病院の耳鼻科の先生および職員の方々には心より感謝を申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大以降は、基幹病院と行政、そして市内開業医との3つの連携の重要性がさらに高まり、今まで以上に3者の関係を皆様も意識されたのではないのでしょうか。その要となる平鹿総合病院では、コロナ感染者のみならず一般診療で高度の医療行為が必要な方々へのご対応にご尽力いただき本当に頭の下がる思いです。

感染が終息に向かう次の数年には、それぞれに新しい診療のスタイルが構築され、そして、これまでも悩みの種であった医療人材不足と人口減少がさらに大きな課題となり、各地域の医療連携によってこれを支え合う時代がくるのではないのでしょうか。今後益々、地域連携室の皆さまならびに病院スタッフの皆さまにはお世話になることが多くなると思います。これからも、何卒、宜しく願い申し上げます。

地域の中核施設を目指す



介護老人保健施設
りんごの里福寿園
事務長

村上 啓二



地域医療連携室にはいつも大変お世話になっています。私共老健施設の理念と役割は5つあります。①包括的ケアサービス施設②リハビリテーション施設③在宅復帰施設④在宅生活支援施設⑤地域に根ざした施設です。地域とのきずなを深め、地域づくりの中心を担うため、老健施設がいかに持ち味を出しているのか地域社会において、私たちがめざす望ましいサービスとは何か。地域包括ケアサービスは「地産地消」が原則と考えています。

現在、市からの委託事業「健康アップ教室」は要支援1・2または事業対象者を対象にした、3～6か月の短期集中予防サービスです。高齢者自身の日常生活動作の能力を高め、本人の介護予防の実践に結びつけていくため、運動機能向上や栄養改善、口腔機能向上などのプログラムを行っています。また住民主体による活動の「つどいの和りんりん」への送迎や諸準備など後方支援をする地域支援活動に取り組んでいます。これからも多職種を抱える老健施設の特徴を活かした介護予防教室や集いの場を活かし、専門職の立場からのフォローをしながら、地域が有機的に繋がっていく体制づくりを進めていくことも、地域に根差す同施設の使命と考えています。

当院の活動報告

望む生活を実現するための医療・介護連携



平鹿総合病院
退院支援専従看護師

佐藤 泰子



地域包括ケアシステム推進に伴い、入退院支援センターが開設され6年目を迎えました。当院では、患者さん、ご家族が安全に且つ安心して入院治療を受け、退院後思い描く生活に戻れるよう日々支援をしています。

2025年問題や少子高齢化などで高齢者世帯、独居者が増加しており、医療・介護の必要な方が増える一方、介護者は不足し社会問題になっています。私たちが住む横手市も例外ではありません。

『入院療養』は、これまでの生活の延長線上にあって、『病院』は、必要な治療が終われば患者・家族が望む生活に戻れるよう支援していくことが大切と考えています。

しかし、現実には、在院日数が短くなっており、スムーズに日常生活を取り戻すことは容易ではありません。入院前支援として、予定入院の決定した患者さんやご家族へ入院説明をする際に、生活状況を確認し、入院中や退院後の心配などの相談に応じています。また、入院直後から面談やカンファレンスを行い、退院に関わる問題についてケースワーカーやケアマネージャー、施設相談員とも連携して支援しています。

今年度は、『歩けるようになったら独居生活に戻る』『トイレが自立できれば、家で介護できる』『もう少しリハビリを頑張りたい』を叶える支援を老健施設の協力で実現できています。短期入所であり自宅に戻るための通過点として施設の利用希望が増えていると思います。

退院支援は、当部署のみでできるものではなく院内の多職種、地域の先生方、行政・介護福祉関係機関との連携のもとに成り立っています。皆様のご協力に感謝申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。

地域との繋がりを大切に



平鹿総合病院
地域医療連携室
看護副師長

新田 広子



日頃より地域医療連携室へのご協力・ご支援を頂き、ありがとうございます。

地域医療連携室は、地域の保健・医療・福祉の動向を把握しながら病診・病病連携が円滑に進むよう院内外の医療機関に働きかける役割を担っています。コロナ禍の中、感染対策と共に、地域での医療が滞ることがないように、これまで以上に、地域医療機関の関係者との信頼関係の構築を強化していきたいと考えております。

本年度、伊藤事務長と55施設の横手平鹿地域医療機関を個別訪問させて頂き、地域医療の最前線の実情や各機関との連携の強化を再確認いたしました。また室長、整形外科診療部長、リハビリテーション科技師長、MSW係長、退院支援専従看護師とともに2施設の施設訪問をさせて頂き、病院の現状や施設からの受け入れ体制などの意見交換から今後の退院支援の体制構築に向けて意義のある訪問になりました。

今後も地域医療連携室一同、地域に開かれた窓口としての役割、病院と地域を繋ぐ役割を遂行してまいりますので、今後ご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

緩和ケアチームについてご存知ですか？

〈平鹿総合病院 緩和ケアチーム〉



『緩和ケア』とは？

多くの方が「緩和ケア＝がんの終末期ケア」というイメージを持たれていると思います。ですが、今はがんと診断された時期から緩和ケアを受けるという考え方が周知されてきています。また、昨今ではがんに限らず、慢性疾患（心不全、腎不全、肝不全、認知症）など長期に渡り病気と共に生きていかなければならない患者さんとそのご家族も対象に緩和ケアが提供されるようになってきました。



「緩和ケア」では、どのようなケアを受けられるの？

- ・自分の病気を知り、治療法の選択を助ける
- ・痛みなどのつらい症状を取り除くケア
- ・日常生活を取り戻すケア
- ・こころのふれあいを大切にし、元気になるケア
- ・ご家族へのケア（喪失・悲嘆に伴う適切な支援）
- ・ご自宅でも、緩和ケアを受けられるようにする



緩和ケアチームとは？

週1回の回診を行います。緩和ケアチームは医師、看護師、薬剤師、栄養士、MSW、リハビリスタッフと多職種で患者さんにご家族をサポートできるよう主治医と連携して関わっていきます。多職種で患者さんやご家族にとって少しでも支えとなり、悩みを軽減できるよう支援していきます。

病気になると痛みなどの身体の苦痛だけでなく、精神的な苦痛（不安やうつ）、社会的苦痛（経済面や仕事、家族との関係から生じるつらさ）、実存的な苦痛（生きている意味を失うようなつらさ）を感じる場合があります。これらに対して、緩和ケアチームが対応させていただきます。気になる方は、主治医や看護師などに相談してみてください。

地域医療連携室スタッフ

室長 榎本 好恭
副室長 堀川 洋平
事務次長 武藤 進
(医事課長)
看護副師長 新田 広子
看護主任 大沢 知佳
事務 中嶋 秋子

平鹿総合病院

〒013-8610 秋田県横手市前郷字ハツ口3番1
代表 TEL:0182-32-5121 FAX:0182-33-3200
URL: <http://www.hiraka-hp.yokote.akita.jp/>

地域医療連携室

*月曜日～金曜日（土日祝日除く）8:30～17:00
時間外は救急センターへご連絡をお願いいたします。
直通 TEL:0182-45-6012 専用 FAX:0182-32-0698
E-mail: tiiren@hiraka-hp.yokote.akita.jp